

2015



平成27年2月 発行

No. 96

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018(823)2708

発行者 今野 昌雄

編集者 鈴木 裕子

●●●●● 杉山 雄幸氏 追悼 ●●●●●

杉山雄幸さんを偲んで

佐々木 民 秀

月日の経つのは早いもので、杉山さんが逝って早くも二年が過ぎ去った。

責任感強く努力家で、人一倍仕事熱心で温厚な人柄の杉山さんは、秋田銀行を退職後、第二の職場として秋田国際カード会社に席を置き、これから山を再燃し、第二の人生を楽しもうとしていた矢先に突如病魔に襲われ、入院先の中通病院で薬石効なく逝ってしまっただ。平成二十四年十二月二十三日享年六十二才。

杉山さんとの初対面は、勤務先の秋田銀行盛岡支店から秋田駅前支店に転勤した頃であつたと思う。

当時、秋田支部長であつた岡田光行さんから、岩手支部長より秋田支部への転出の連絡があり、よろしく頼むとのことであつた。

杉山さんは、昭和六十二年に元岩手支部長であつた佐藤敏彦さんの紹介で入会。皇太子殿下と同期でもあつた。

(会員番号一〇〇二四)

銀行マンとしてその手腕をかわれ、若くして常務取締役となり、退職後の職場でも取締役として活躍、正に仕事戦士の人生であつたと思う。



また、剣道においても五段の腕前をもって活躍されていた。

一時期、支部運営上重要な会計担当で苦慮していた時、杉山さんは会社の重職でありながら、その事務を快く引き受けてくださった。その御恩は忘れることは出来ない。しかし、それも束の間、僅か二年程で病魔に襲われてしまったのである。

会計引継ぎに伺った日から僅か十日程後の他界であつた。

この二十日前には、総務担当の伊藤秀雄さんを失い、続けての悲しみは、事務局として大きな痛手であつた。

杉山さんは仕事に忙しく、これまで山行を共にすることはほとんどなかったが、想い出に残る山行は、支部設立三十周年記念として、日本一低い明田富士山へ標柱を設置したことや、戸来岳登山、北アルプス常念岳・蝶ヶ岳を縦走したことなどが懐かしい。

ここに生前のご交情に感謝申し上げます。杉山さんのご冥福を心からお祈り致します。(合掌)



杉山さんのこと

鈴木 裕子

私が初めて杉山さんをお見かけしたのは、平成四年十一月、支部山行で韓国・智異山登山のため、仙台空港に行った時だった。

当時の岡田支部長が、杉山さんのことを、秋田支部の会員で、秋田銀行仙台支店に勤務している。わざわざお見送りに来てくれたと言っていた。

その頃、杉山さんは仕事が忙しいらしく、山行に参加することはほとんどなかったが、それでも総会には出席することもあり、何となく顔見知りになっていた。

平成十六年九月、日本山岳会百周年記念事業の分水嶺踏査で、八幡平・倉岳から孫六温泉分岐までの縦走山行へ



佐々木 鈴木 今野 杉山さん

参加された時、私と同じ班で共に行動をした事が思い出される。雨が降っていた。初日は参加者十四名、雨の中を脊岳から関東森を越えて、八瀬森山荘泊りとなった。賑やかな夜だった。

次の日、大白森小屋の前で、歩きながら採ったキノコをみそ汁に入れ、昼食。「毒キノコでねばな」とか、「しつかり煮だほういいな」「沸騰、沸騰」と言ったことが懐かしい。

平成二十二年八月、時間に余裕が出来たから、山行の時には声をかけてほしいと言っていたので、常念岳へ蝶ヶ岳縦走に誘った。

杉山さんは、登山道脇の山野草を見つけ「これ何という花つこだすか」と聞かれたが、私は高山植物に疎いので「常念シランソウ」とでたらめを言うのと、「んだすか」と初めは信用していたが、「深山ワカラソウ」になると、さすが気づいて大笑いしていた。

常念岳山頂直下にある常念小屋で、同行の佐々木民秀さんと今野昌雄さんはアルコールがだめなので、杉山さんと二人、食堂で生ビールを飲んだ。北アルプスでは何処の小屋でも生ビールが飲めて、おいしい食事がでる。

二人で取り留めのない話をして、何の話をしたのかは忘れてしまったけど、「俺、もう一杯もらってくるす」と言っておかわりのジョッキと枝豆を買ってきて、にこにこ美味しそうに飲んでいた笑顔を思い出す。

平成二十三年に支部役員に推薦され、その責任感から時間を無理にあげ、春の神宮寺岳山行に参加した。そして、次の会議へと伊豆山には参加せず、帰ったこともあった。



常念岳山頂での杉山さん

平成二十四年四月、公益社団法人となった日本山岳会秋田支部の会計を引き受けてくれた時は、本当にありがたかった。総会で受付を担当し、術後と思えない程元気だったので、安心していった。

そして七月、連絡事項があつて、我が家に来た杉山さんは、大きな声でも元気があった。私は「杉山さん復活した」と喜んでいった。

十二月になってご自宅に連絡した時は、元氣な杉山さんしか頭になく、病気が悪化していたとは露知らず、会計の事をあれこれ話してしまった。責任感の強い杉山さんにはどんなに辛いことだったろう。知らなかったとはいえず、申し訳なかったと心が痛む。

ごめんなさい。杉山さん。貴方から教えていただいた会計の基本に従い、支部の事務は引き継がれています。ご指導有難うございました。(台掌)

秋田支部自然保護委員 堀井委員の活動

◎秋田市仁別国民の森

仁別森林博物館・自然観察会等。
五月～十月まで十九回担当。

◎秋田市仁別植物園 (秋田市管理)

ボランティア活動
来園者に植物、樹木等の説明等。
五月～十月まで六回担当。

◎「自然学習センターまんならめ」

(秋田市管理)

☆太平洋登山サポーター

・前岳 六月～十月 三回
・中通小学校五年生四十名他

・奥岳 六月・八月 二回
小学生、初心者三十名

☆スノーシュー体験 二月

浜田小学校五年生十七名

◎自然観察会等

☆象潟九十九島探訪 (県自然観察協議会主催)

☆仁別溪谷トレッキング (岩城少年自然の家主催 小学生十八名)

☆子供雪上訓練 (北部公民館主催 小学生二十名)

◎その他、太平洋観光開発、神武館三吉道場主催の太平洋登山や、紅葉トレッキング等にサポーターの一員として協力をしている。

◎会員で、地域の自然観察会や山行に協力している方は、事務局までお知らせください。支部の公益的事業として評価されます。

お知らせ



支部設立三十周年記念事業で明田富士山に設置した「日本一低い富士山」の標柱が、秋田明田郵便局の風景印になりました。

(平成二十六年五月二十七日、意匠使用願許可。初日印七月二十五日)

奥村清明会員

奥村会員は、平成二十六年十月二十六日から十二月六日まで、秋田魁新報の「時代を語る」欄で、生い立ちや自然保護に対する思いを四十回に渡り連載された。

親子で楽しむ山登り

五月三十日、本会から昨年同様、「子どもゆめ基金」の助成を受け、ウエイブサイト「親子で楽しむ山登り」の原稿作成依頼があった。

締め切りが六月末の短期間であり、六月八日の「太平洋市民登山」に親子で参加した方に協力をお願いして、写真を撮らせていただいた。

鈴木(裕)事務局長が担当。「太平洋旭又コース」を紹介。サイト用の原稿を作成し、八月三十一日送信した。

太平山前岳にベンチを設置 あれこれ！

堀井 弘

太平山前岳（七七四m）は、市内から身近にあり、四季を問わず登山者に親しまれている。

前岳にベンチがあれば良いなあという声を時々耳にしていたので、支部総会で「前岳にベンチ設置」を提案したら、支部設立五十五周年記念事業と併せて、公益的事業で行う事に決まり、私が担当する事になった。

前年、二手ノ又登山口に設置した時も担当したので、ベンチ造りには自信があったが、問題は前岳までどうやって荷揚げするかであった。

担当を引き受けたものの、設置までにはやはり「あれや、これや」の苦心があった。

前年にベンチを設置した経験があり、図面があったこと、知人の住宅解体業者から良質の秋田杉角材を譲りうける事が出来たこと、弟が木工所を経営しているのも木工機械を借用でき、一人で思うように作業ができたこと、さらに工夫をして、ベンチ足下部に腐敗防止のためにアルミの角材をつけた。

そして、七月の晴天時に、防腐剤とペンキを塗り、現地で組み立てをするばかりに仕立てて、保管しておいた。

また、二手ノ又登山口から前岳まで約一時間三十分の登山道を、荷揚げしていただける会員に連絡し、協力を確保しておいた。

好天に恵まれた十一月八日（土）、い

よいよ設置の運びとなった。会員や会員外の方も含めて荷揚げの協力者十五名が二手ノ又登山口に集合。ミーティングの後、今野支部長差し入れのパナナをいただき、思い思いに背負子をつけ、ベンチの部品と工具が運ばれた。体力に自信の有る三名が往復で運搬、とても助かった。

八時十五分頃出発。女人堂に前もって運んでおいた部品もあり、それらを回収しながら九時五十分頃前岳に到着。ここで、ベンチ設置班と歩道整備班にわかれて作業開始。持参した電動ドライバ、草刈り機が大いに役立つ。



ベンチ設置班はとても賑やか、いわか船頭が続出して、あれこれ指示を出すので現場は混乱、笑いが絶えなかった。ここでの反省、船頭は一人で良い！

登山者が二人、三人と作業中の我々にご苦勞様、ありがとうとねぎらいの声があり、嬉しい。またどこかに設置したい気持ちになった。

作業は午前中で終了。女人堂へ移動し、神社前で昼食。おかずの交換やら、コーヒをいただくなど、作業中の笑話話が飛び交い、賑やかだった。午後二時頃、駐車場にもどり、無事解散。

支部では、歩道整備事業の一環として、旭又コースへ「あやめ坂」の看板を設置するなども行っている。仲間を誘い合って、ベンチを利用し、標柱や看板等を見ていただけると嬉しい。

参加者 佐々木民秀 今野昌雄

鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫

佐藤 博 鈴木美代子 石川祐子

安藤金栄、熊谷光子

会員外 畠山秀雄（太平山県立自然公園管理員） 小野銀逸 佐藤英實

石塚稔 鈴木るみ子

新入会員紹介

佐藤 英 實 No.一五六三七

秋田市横森四七四七

昭和二十一年七月六日生

電話 〇一八—八三一—三二七〇

入会 平成二十六年十一月

紹介者 鈴木裕子 佐々木民秀

年次晩餐会開催

十二月六日午後六時から、東京都新宿区、京王プラザホテル・コンコードボールルームで開催。五一〇名参加。

出席者 佐々木民秀 今野昌雄

福田光子 鈴木裕子 佐々木長秀

記念山行（七日 明神山・高指山）

参加者

佐々木民秀 今野昌雄 鈴木裕子



左から二人目 森日本山岳会会長
左から四人目 神崎日本山岳協会会長

支部会員の動向

佐々木民秀会員は、十二月六日に行われた年次晩餐会で永年会員に推挙されました。

昭和三十九年六月に入会にされ、五十年間在籍。

晩餐会記念山行に参加して

佐々木 民 秀

年次晩餐会の翌日に行われた集會委員主催の懇親山行は、山中湖東部に位置する明神山（鉄砲木の頭 一二〇九m）・高指山（二一七四m）に向け、参加者一〇一名、バス二台で新宿駅西口・工学院大学前から午前八時に出発した。

この日は幸運にも快晴となり、車窓から白く輝く富士山の雄姿を眺めつつ、山中湖パノラマ台駐車場へ。

午前十時過ぎ、霜柱の立つカヤトの茂る明るい斜面を登り、丹沢山系最西部の峰・明神山に一時間程で着いた。

山頂の少し手前には、山中諏訪神社奥宮の石祠が建ち、ここから眺める山中湖と富士山、その後ろに南アルプスが連なり、三ッ峠方面など第一級の眺望が広がっていた。ここで、全員で記念写真。

明神山は主稜線上にあり、右への道は三国峠方面へ。ここから左へ灌木の茂る平坦な主稜線上の道を進み、切通峠の先でそれぞれ昼食をとる。

この先、国立公園の大看板の建つ平野集落への分岐を経て急坂を登り、午後一時に指導標柱と三等三角点のある高指山に到着した。

山頂からは富士山は望めたが、延々と連なる丹沢山系の雄大な主脈は灌木で望めず、残念であった。

記念写真の後、少し戻って、大看板のある分岐から平野集落へのコースを下り、別荘地を通過して午後二時に平野

バス停に下山。バスで往路を戻り、新宿駅西口近くで解散となった。

思い起こせば、四十七年前（昭和四十一年）に、年末から正月にかけて単独で入山し、丹沢大山から蛭ヶ岳、大室山、菰釣山、高指山を経て三国山へと縦走し、一月二日には富士山頂に立ち、山頂を一周して夜遅く吉田に下山。さらに三ッ峠と黒岳を縦走したことがあったが、当時の記憶が薄れてか、明神山上登って初めて過去に通ったことに気付くという、想い出の山行ともなった。

企画してくださった集會委員会に心から感謝申し上げたい。



明神山から望む富士山と山中湖

支部長会議

十二月六日、晩餐会に先立ち、午前十時三十分から京王プラザホテル会議室で開催。今野支部長出席

会務報告として、百十周年記念事業、日本山岳会の説明会の開催、安全登山について等の報告。

また、本会の財政問題、四国支部主管の全国支部懇談会、秩父宮山岳賞受賞の経緯、今後の日程等について、年度末を控え、各支部へ二十七年事業報告や予算、二十六年度の事業報告や決算報告等が支部へ依頼される。

百十周年記念事業の一つとして、「新日本山岳誌」の改訂版が刊行されるので、各支部へ校正を依頼された。その他。

会務報告

◎役員会を開催

◆九月二十四日ジョイナス会議室で午後五時から開催。

岩崎元朗氏講演会打ち合わせ

出席者 佐々木（民） 今野 鈴木（裕）
堀井 鎌田 佐藤（博） 佐々木（長）
アルパインツアー杜山田

◆十二月十八日、午後一時から秋田市中央公民館で開催。

九月二十日～二十一日に行われた支部合同会議の報告。本会の組織、次期人事の基本方針、会員の動向（高齢化の進む日本山岳会）、中でも支部山行も含め、登山計画書を提出するように指導があったこと等が報告された。ま

た、佐々木（長）総務委員から、会員増の立場から各支部で検討している支部友の取り扱いについての報告もあった。

十二月六日に行われた支部長会議の報告の中で主なものは、創立百周年記念事業で発行された「新日本山岳誌」の改訂版を、一〇周年記念事業として刊行する、その校正依頼である。

秋田支部の執筆者は十二名、その総括を佐々木民秀顧問に依頼した。

二十八年度に秋田支部で担当する東北・北海道地区集会の開催地も、参加する会員が高齢化していることもあり、ゴンドラで「森吉山」か、駒ヶ岳の「笹森山・湯森山」が話題となった。

出席者

今野（昌） 佐々木（民） 鈴木（裕）
堀井 鎌田 佐藤（博） 三浦（眞）
佐々木（長）

岩崎元朗氏講演会

十一月二十二日（土）午後二時から秋田市にぎわい交流館で開催された「健康登山in秋田」には、百八十人を超える方々にご来場いただき、成功裡に終了しました。

受付等、当日ご協力頂いた会員

佐々木（民） 今野（昌） 鈴木（裕）
堀井 鎌田 佐藤（博） 鈴木（美）
石川 佐々木（長） 安藤（金）
藤田 佐藤（英）

訂正

会報九五号 一頁上段後ろから十行目、
太平洋山 ↓ 太平山や に訂正